

# 世界経済の成長を反映する 海外先進国株式

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

先進国株式は、長きにわたり、世界の株式市場をけん引してきました。先進国から日本を除くことで、日本人投資家の立場で「海外の先進国株式」の動向を捉える株価指数に、MSCI Inc.が算出するMSCI KOKUSAI INDEX(MSCIコクサイ指数)があります。1986年3月31日に算出が開始されてから30年以上のトラックレコードがあり、年金運用や投資信託、ETF(上場投資信託)に至るまで幅広い金融商品において、運用のモノサシ(ベンチマーク)として使われています。

MSCIコクサイ指数の特性を詳しくみると、先進国の株式や経済状況を垣間見ることができます。2019年11月末現在、日本を除く22カ国の先進国・地域に上場する大・中型株を対象にしており、1,326銘柄で構成され、対象市場の約85%をカバーしています。また、時価総額は4,362兆円で、原則、時価総額の大きい銘柄を優先して構成銘柄とするため(浮動株調整後の時価総額加重平均)、流動性が高いといえます。また、グローバルに事業を展開する企業が多い米国が、全体の約7割を占めています。

構成上位銘柄をみると、その時代を代表する(時価総額が大きい)企業が名を連ねています。2019年11月末現在で、「GAFA(ガーファ)」と呼ばれる主要IT企業4社(アルファベット(グーグルの持ち株会社)、アマゾン、フェイスブック、アップル)が上位10銘柄に入っています。15年前と比べると、世界経済の成長を反映して上位銘柄が大きく変化しており、現在勢いがある、将来性が高いと期待されている銘柄が、結果として上位に並んでいます。

世界の株式は、上下動を繰り返しながらも長期的な成長を遂げてきました。近年、新興国の存在感は増しているものの、先進国は、相対的に安定した経済および成熟した社会を誇り、流動性の高い株式市場を有しています。預貯金や国債、日本株など国内資産の保有がほとんどという方は、海外投資の「はじめの一步」として、同指数をベンチマークとした投資信託などをポートフォリオに組み入れてはいかがでしょうか。分散投資を図りながら、世界経済の成長を享受することで、資産形成にご活用いただけます。

## MSCIコクサイ指数の特性

### パフォーマンスと時価総額の推移 (2004年11月末～2019年11月末)



※株価指数は、いずれも円ベース、配当込みです。  
また、グラフ起点を100として指数化しています。

### 構成上位10銘柄

\*( )内は、構成比率

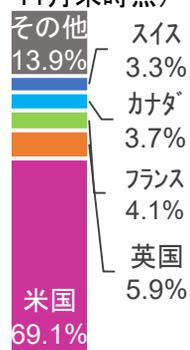
2004年11月末時点 構成銘柄数: 1,328銘柄	2019年11月末時点 構成銘柄数: 1,326銘柄
GE(2.1%)	アップル(3.0%)
エクソンモービル(1.9%)	マイクロソフト(2.8%)
シティグループ(1.3%)	アマゾン・ドット・コム(1.9%)
BP(1.3%)	フェイスブック(1.2%)
ファイザー(1.2%)	JPモルガン・チェース(1.1%)
バンクオブアメリカ(1.1%)	アルファベット C(1.0%)
HSBC(1.1%)	アルファベット A(1.0%)
ホーダフォン(1.0%)	ジョンソン&ジョンソン(0.9%)
ジョンソン&ジョンソン(1.0%)	VISA(0.8%)
IBM(0.9%)	ネスレ(0.8%)

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

### 国・地域別の 時価総額構成比率

\*(2019年

11月末時点)



※上記は、四捨五入処理をして表示しています。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成  
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。